

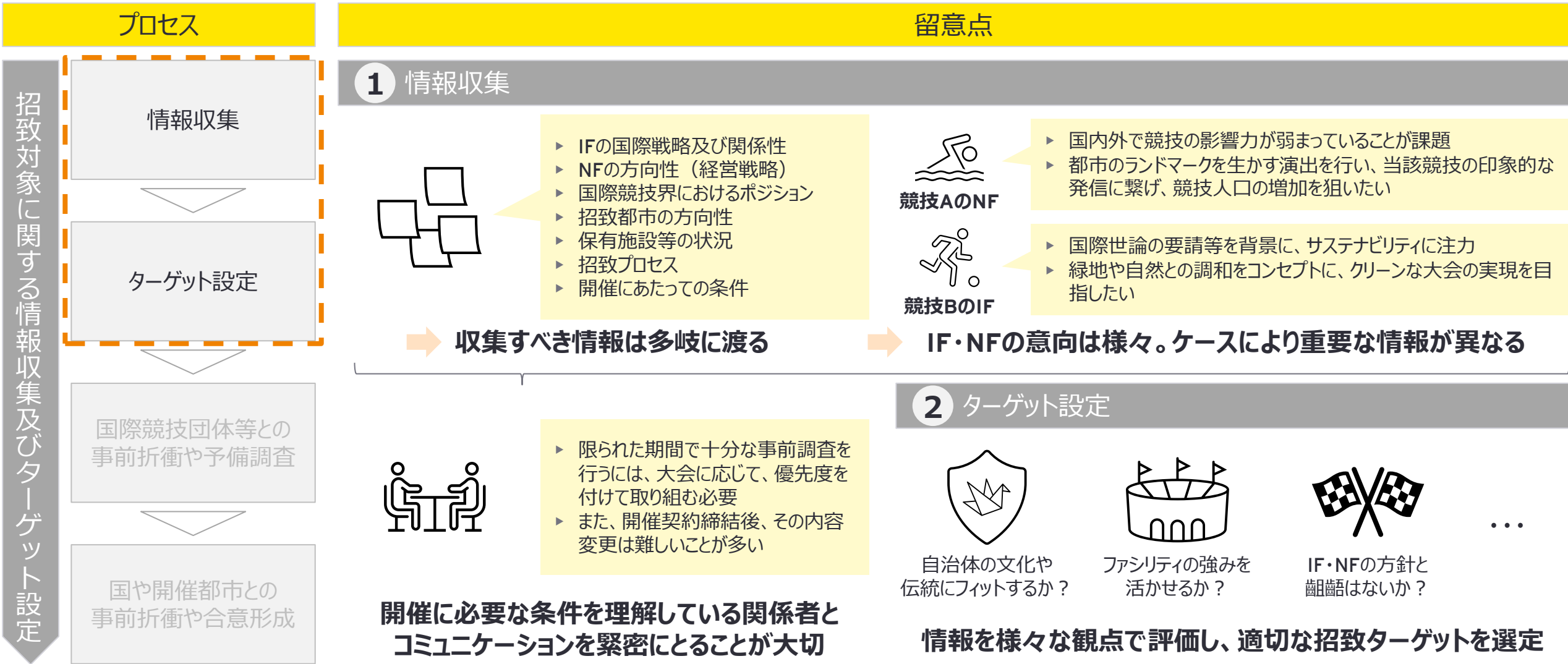
「国際競技大会の招致」講座

3-2 招致大会に関する事前調査

招致戦略の立案

招致大会に関する事前調査

情報収集・ターゲット設定：全体像



AJRUアジアジャンプロープ選手権／IJRU世界ジャンプロープ選手権の場合

情報収集・ターゲット設定：具体事例

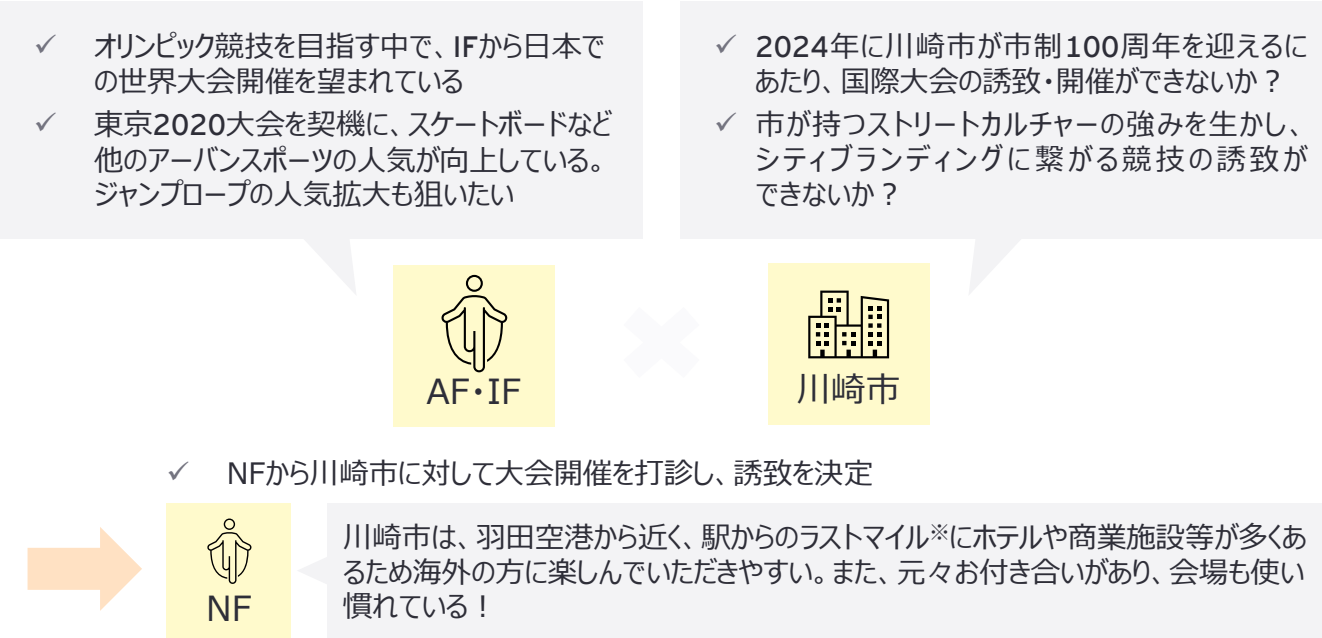
事例 AJRUアジアジャンプロープ選手権／IJRU世界ジャンプロープ選手権



YOKOHAMA URBAN SPORTS FESTIVAL '23の様子（2023年）。日本では特にアーバンスポーツの人气が高く、2日間で計7万人を動員



アジア選手権の様子（2024年）。公式国際大会を初めて日本で開催



NF職員がAF職員を兼任する中で持つネットワークやIFとの直接のネットワークを生かし、NFがハブとなって、アジア選手権と世界選手権の連続招致を決定

※ラストマイル：競技大会に関する文脈において、競技会場周辺における最寄り駅等から競技会場出入口に至る徒歩ルートを目指す。観客シャトルバスの乗降場を設置する場合、観客利用想定駅・競技会場出入口と乗降場との間の徒歩ルートを含む

※AF：アジア地域における競技統括団体の略称（Asian Federation）



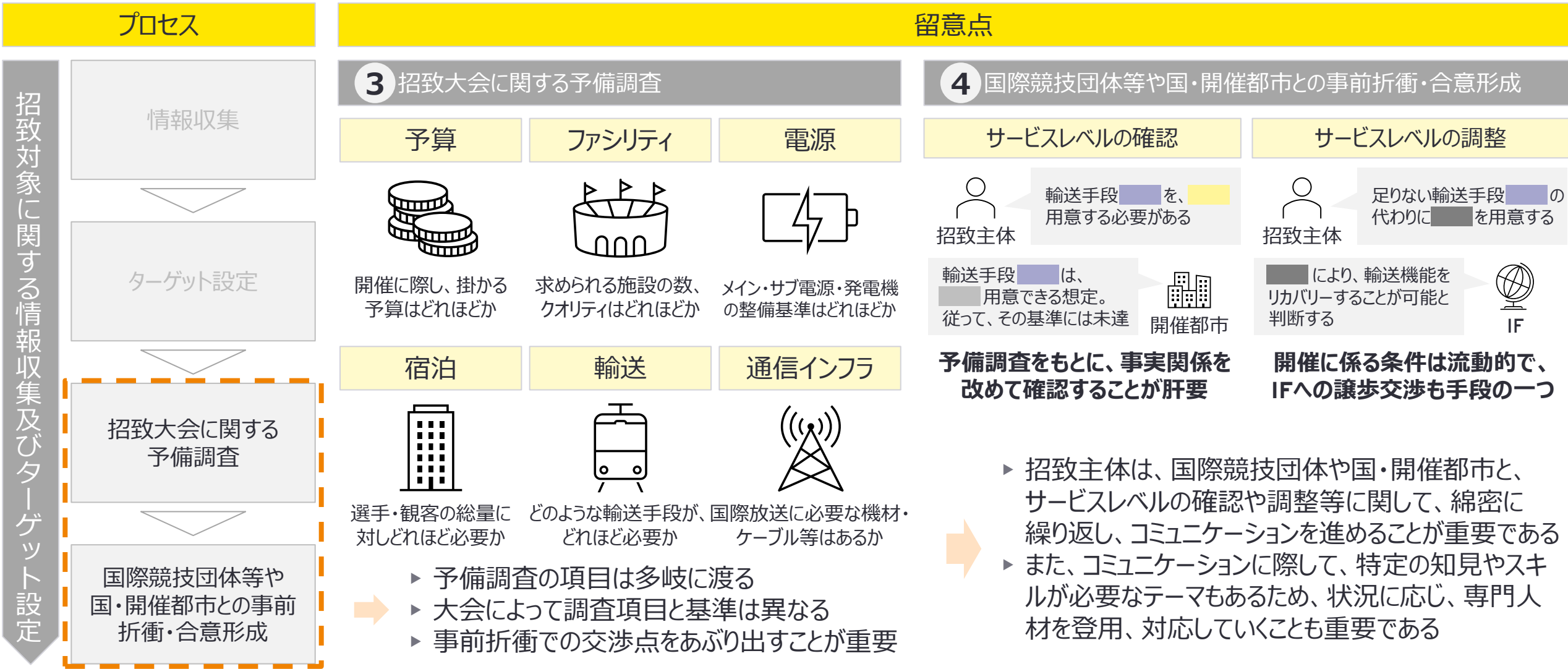
川崎市は若者文化の認知度向上・機運醸成を実施し、若い人たちが集い、挑戦できる環境づくりに向けた施策に取り組む



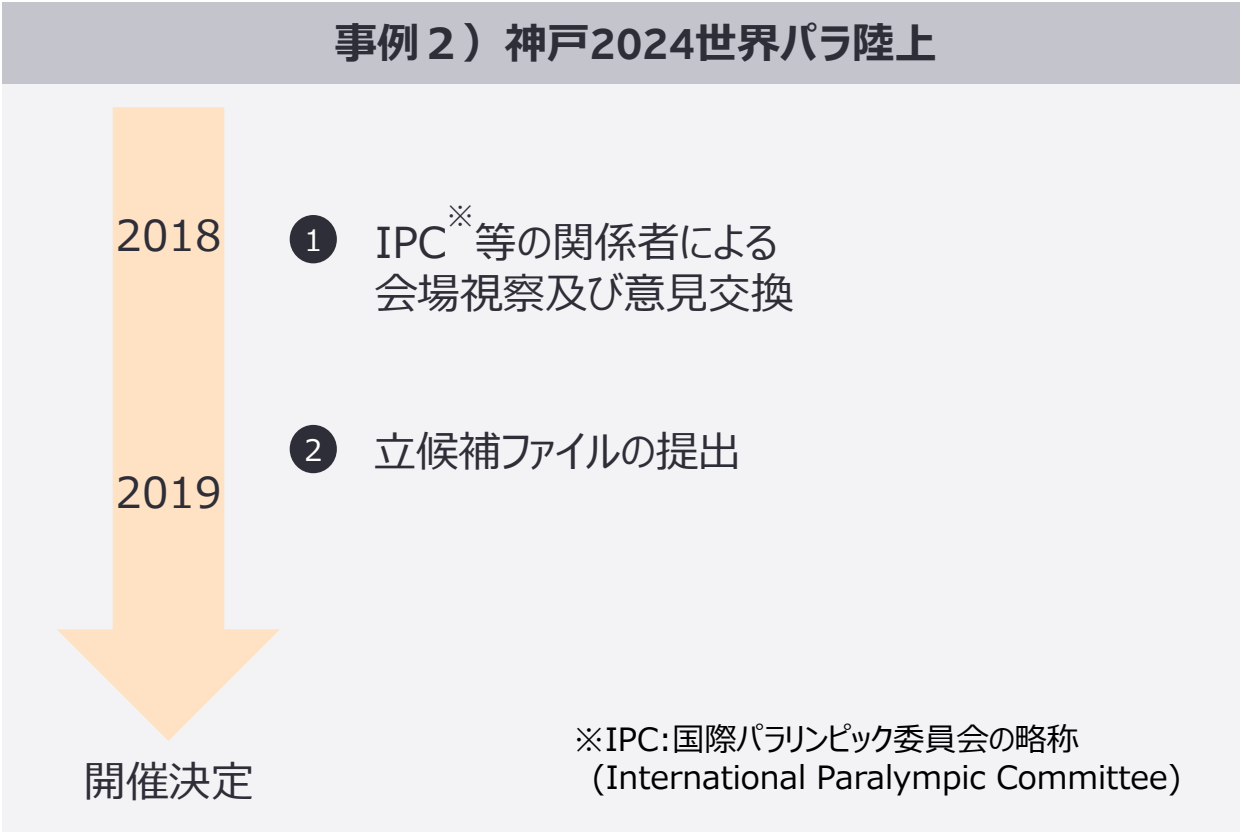
世界選手権の様子（2025年）。2,600名を超える選手団が集結

国際競技団体等/国や開催都市との事前折衝や予備調査・合意形成 全体像

国際競技団体等/国や開催都市との事前折衝や予備調査・合意形成：全体像



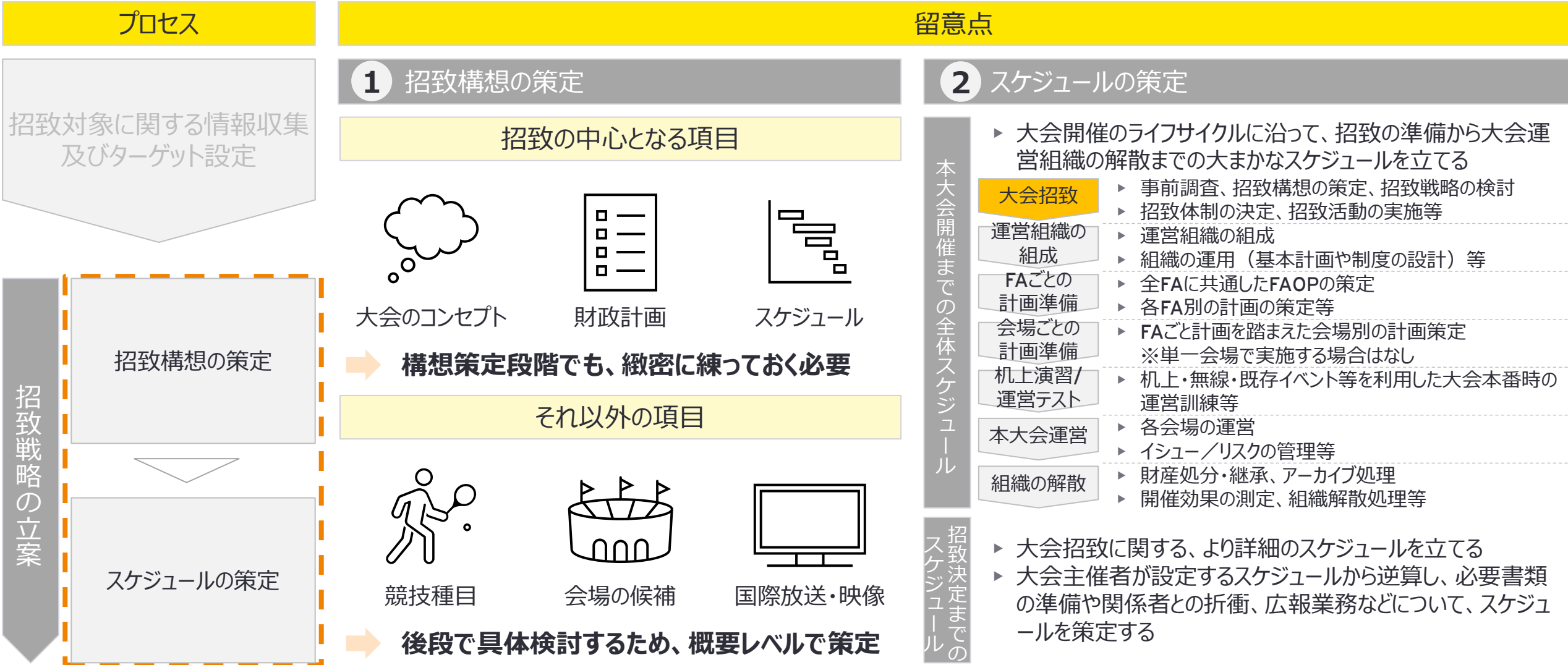
国際競技団体等や国・開催都市との事前折衝・合意形成：具体事例（招致プロセス）



上図は各関係者へのヒアリングをもとに事務局作成

招致戦略の立案

招致戦略の立案：全体像



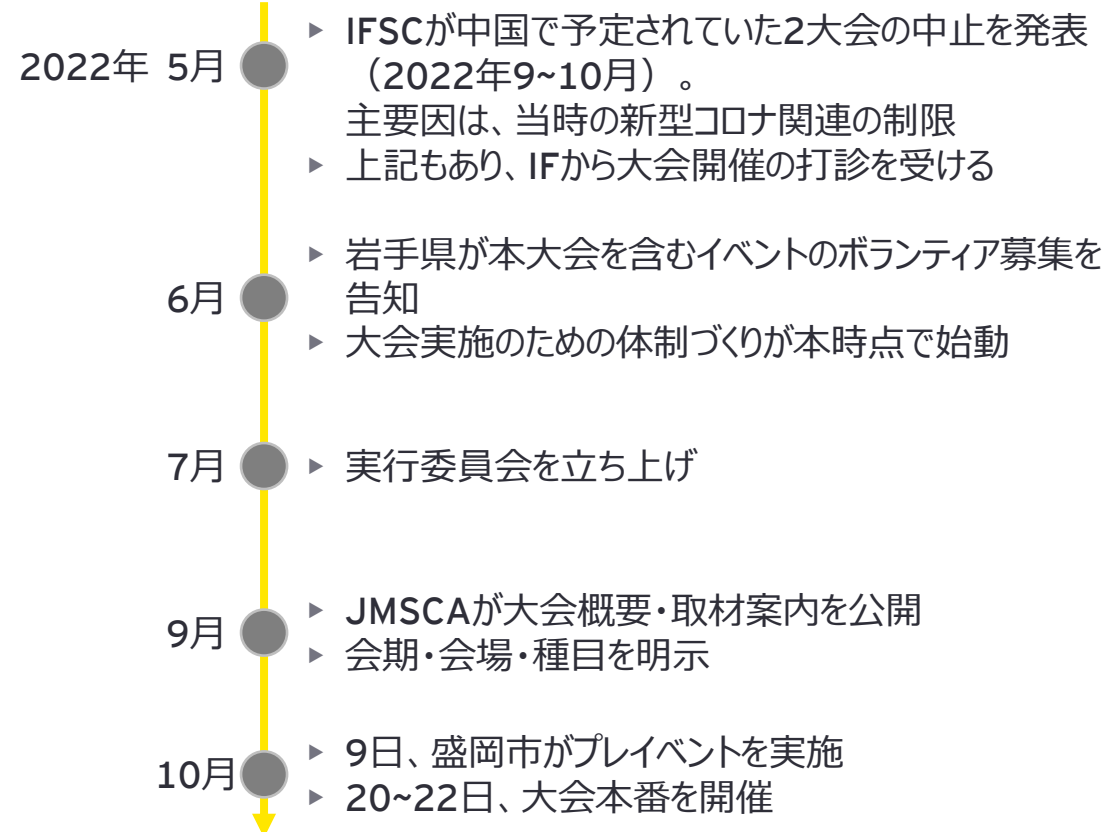
具体事例：招致戦略の立案

IFSCクライミングワールドカップB&Lコンバインドいわて盛岡2022

概要

- ▶ 大会招致の決定から開催までの期間が短く限られた期間の中で準備を実施した事例

タイムライン



愛知・名古屋アジア競技大会

概要

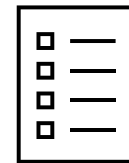
- ▶ 大会招致のための初期構想を策定した事例



大会のコンセプト

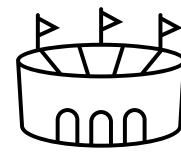
1. アスリートファーストの視点
2. 既存施設の活用
3. 先端技術の駆使
4. 伝統と県民・市民性に触れるおもてなし
5. アジア競技大会の開催を誇りに、さらなるスポーツ文化の普及へ貢献

構想の内容

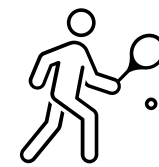


財政計画

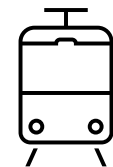
- ▶ 大会主催者負担経費：850億円
 - └ 運営経費：440億円
 - └ 競技会場仮設整備費：110億円
 - └ 選手村仮設整備費：300億円



会場の候補



競技種目



交通・輸送

...